

東松露香 あきつゆ 俳人、小林一茶研究者。慶應元年七月十六日出羽國水澤生れ、大正七年一月八日歿（一八五七—一九一八）。本名淨藏。別號我春堂、臥牛、鐵牛、鴟子園。上京して同縣人大橋乙羽を知り、博文館入社。『文藝俱樂部』等の小説、俳句を書く。明治二十年新潟の高田新聞社に移ると、一年餘にして山路愛山主筆の信濃毎日新聞社に轉じ、主に俳句欄を擔當、更に小説、紀行、挿繪にまで筆を執つた。殊に三十二年四月から百二十回に亘つて連載した「俳諧寺一茶」が受け、爾來一茶研究者として墨蹟の眞實鑑定も依頼せられるやうになつたといふ。また同じ研究者の中村八郎を會主とした一茶同好會創設に參與。

・一茶同好會（を始り、『俳諧寺一茶』（明治四十二年刊）、『一茶遺墨鑑』（大正二年刊）等の出版に盡力した。

『東松露香の人生八年自記』（矢羽勝幸校注・解説、平成十五年八月二十一日長野・信濃毎日新聞社）がある。

